



かながわの交通

2011
8


今年の交通安全年間スローガン(全日本交通安全協会会長賞)
—運転者(同乗者を含む)に対するもの—

乗る人の 命の数だけ シートベルト



8月19日はバイクの日

(写真は相模原北交通安全協会提供)

ハンドルキーパー運動推進中!

飲酒運転根絶!!
 今日のハンドルキーパーさんは?

◎県内の交通事故発生概況(7月末)

◎県人口・運転免許人口

年別	区分	発生件数	死者数	傷者数		総数	男	女
平成23年		21,834	92	25,884	県人口	9,029,996	4,543,159	4,486,837
平成22年		23,741	101	28,182	免許人口	5,506,541	3,217,232	2,289,309
増減数		-1,907	-9	-2,298	割合	1.6人に1人	1.4人に1人	2.0人に1人
増減率		-8.0	-8.9	-8.2				

(県人口は平成22年9月1日、免許人口は平成23年6月末)

第44回二輪車安全運転全国大会

〔Bクラス(400CC超)の杉山選手が第7位入賞〕



「スラローム」に挑戦中のBクラス杉山選手

〔財〕全日本交通安全協会、二輪車安全運転推進委員会主催、内閣府、警察庁、文部科学省、(社)二輪車安全普及協会後援の第44回二輪車安全運転全国大会は、8月6日、7日の両日、全国44都道府県の選手76人が参加し、三重県鈴鹿サーキットで開催され、本県チームは団体総合成績で第13位を獲得しました。

●第1日目

正午からサーキット内のクラホールで開会式、審判、選手のミーティングが行われ、午後1時30分から交通安全教育センターの二輪車コースで競技が開始されました。競技は高校生等クラス及び女性クラスが法規走行ほかスラローム等5つの課題、一般A・一般Bクラスは応用千鳥走行等6つの課題に対して日頃の運転技術を競い合いました。採点は、法規、技能走行ごとに持ち点(500点)計1,000点からの減点方式で行われ、県代表の4選手は良く健闘し、1日

目を終了した時点では、44都道府県中第20位でした。

●第2日目

午前8時から競技が開始され、1日目とは逆のコースで、それぞれの課題に挑戦しました。競技は、気温34度を超える猛暑の中で行われ、4選手は良く健闘し、第1日目を超える良好な成績で終了しました。結果は、団体で第13位、個人では、Bクラスの杉山盛二選手が第7位に入賞しました。二日間の熱戦、大変お疲れさまでした。

第46回交通安全子供自転車全国大会

〔桜井小の富澤選手が個人で第4位入賞〕

〔財〕全日本交通安全協会、警察庁主催、内閣府、文部科学省、日本放送協会、朝日新聞社等の後援による第46回「交通安全子供自転車全国大会」が、8月3日(水)に全国44都道府県から176人の代表選手が参加し東京ビッグサイトで開催されました。本県からは、小田原市立桜井小学校の富澤明音選手(6年)、森川英美選手(6年)、剣持

麻子選手(6年)椿愛美選手(6年)の4名が出場しました。午前9時からの「学科テスト」に引き続き開会式が行われました。全日本交通安全協会奥村萬壽雄理事長・来賓の中野寛成国家公安委員長のあいさつの後、同委員長の合図で競技が開始され、昨年の優勝県である沖繩の代表選手からスタートし、熱戦の火ぶたが切られました。実技(安全・



桜井小チームのみなさん

技能走行)テストは各県の代表選手だけあって、高いレベルのものとなり、本県代表の4選手は平素の練習成果を如何なく発揮し健闘した結果、団体で第12位を獲得し、個人では富澤明音選手が第4位に入賞しました。



賛助会員のご紹介

神奈川県交通安全協会は、「交通事故のない安全で安心な地域社会」の実現を目指し、さらなる公益性の高い交通安全事業を推進しています。

今回は、これまで賛助会員として協力をいただいている企業等(10社)及び本年4月以降にご入会いただきました企業等(6社)をご紹介します。

●これまでにご入会いただいている企業等

○JX日鉱日石エネルギー(株) 磯子区

○楠原輸送(株) 神奈川区

○萬運輸(株) 鶴見区

○三橋建設(株) 青葉区

○若松屋商店(株) 青葉区

○(株)イワサキ 泉区

○川崎運送(株) 川崎市

○川崎商工会議所 川崎市

○大木山川崎大師平間寺 川崎市

○三五紙業(株) 幸区

●本年新規にご入会いただいた企業等

○(株)重慶飯店 中区

○神奈川県総合生活協同組合 「全国共済」 中区

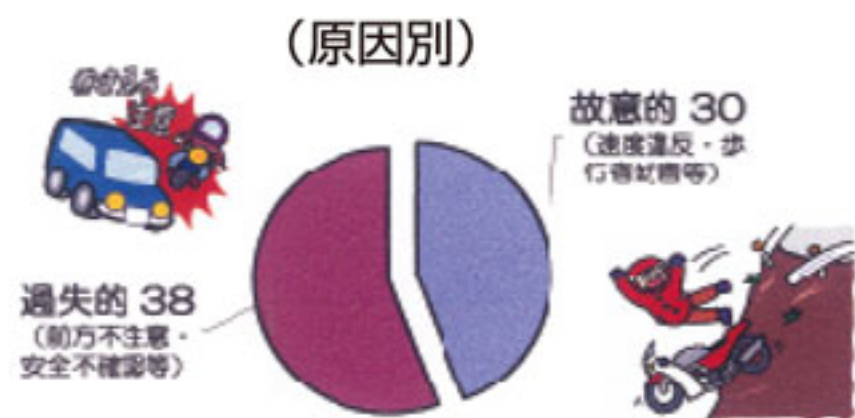
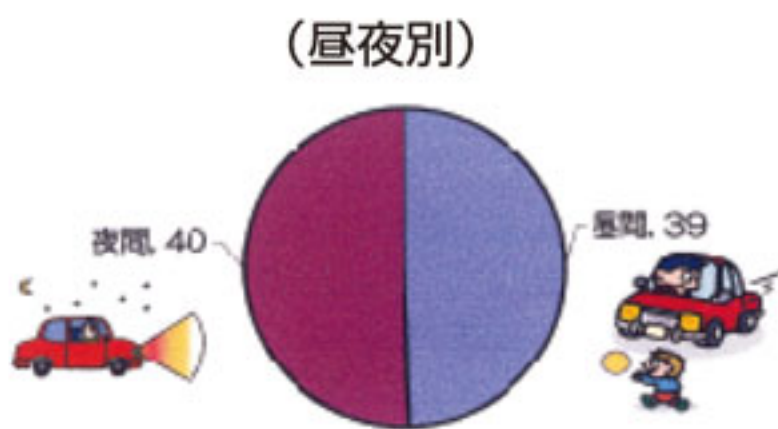
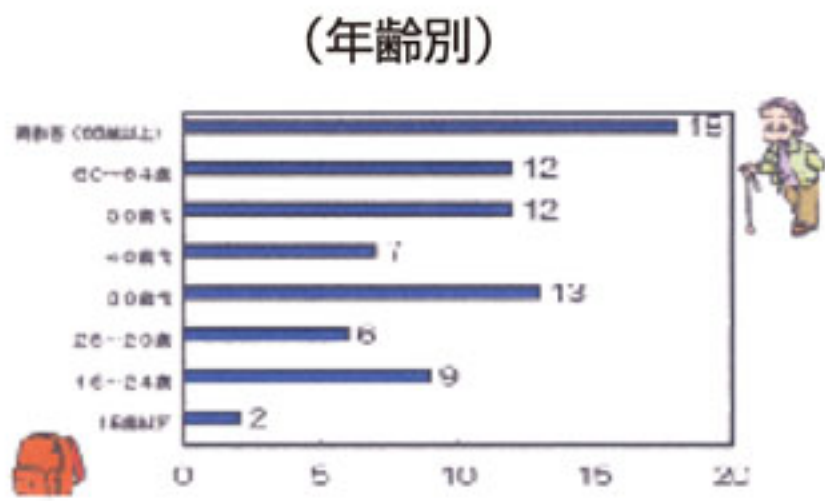
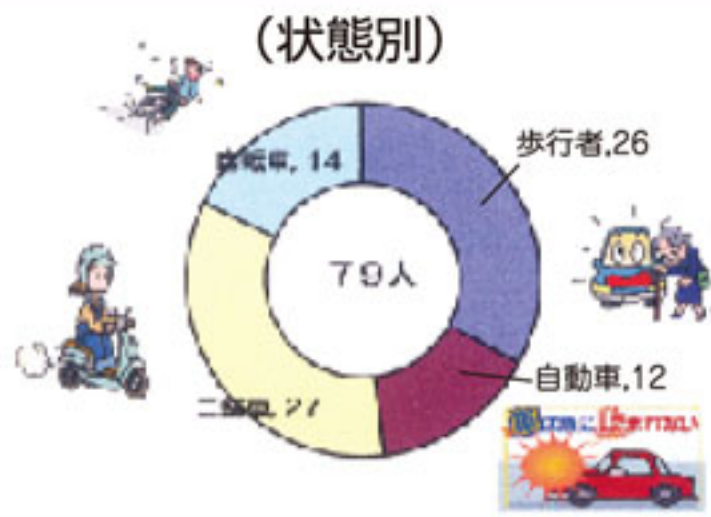
○(公益社団) 商連かながわ 中区

○セコム(株) 港北区

○ヤマト運輸(株) 港北区

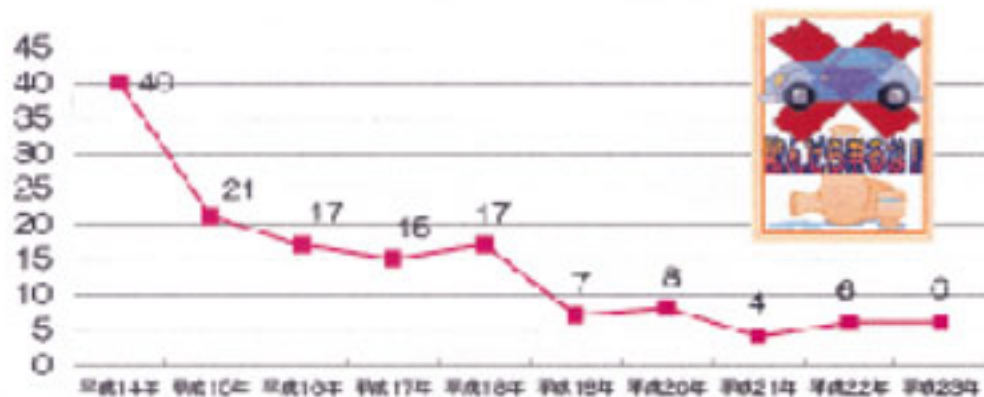
○サンエス技研(株) 都筑区

交通死亡事故(平成23年上半期)の特徴(交通死亡事故死者数79人の分析)



※原付以上の運転者が第一当事者となった死亡事故68件の内訳

(過去10年間飲酒運転事故件数)



7月10日(日)、(社)日本自動車連盟、(財)全日本交通安全協会



ABSの走行体験を行う受講生

「セーフティトレーニング」の開催

共催、神奈川県、神奈川県警察本部、(公財)神奈川県交通安全協会、神奈川県自動車ディーラー交通安全対策推進協議会等後援による平成23年度「セーフティトレーニング」が関東運輸局神奈川運輸支局で開催されました。このトレーニングには、抽選により選出された31名(男性28名、女性3名、最高年齢64歳)が参加しました。受講生はそれぞれ自分の愛車を持ち込んで参加し、開講式に引き続き、日本自動車連盟(JAF)のインストラクター

クターの指導によりトレーニングが開始されました。今回のカリキュラムは、「運転の基本(点検・乗車姿勢・死角)」や正しいハンドル操作等の基本項目のほか、ASV(衝突被害軽減ブレーキの体験)や滑りやすい路面でのESC(横滑り防止装置の体験走行)などで構成されており、より実践的な講習内容となりました。受講生からは、「ESCやASVの体験ができて有意義でした。」などの感想が寄せられ、閉講式では日本自動車連盟神奈川支部から受講者全員に修了証が手渡され、トレーニングが終了しました。

地区交通安全協会事務長人事(敬称略)



青葉 川上 勝矢 (6月21日付)



旭 遠藤 久代 (6月1日付)



鶴見 久田 隆一 (4月1日付)



伊勢佐木 星 明雄 (7月1日付)



藤沢市 本田 正美 (2月1日付)



大船 田村 文治 (4月1日付)



戸塚 鳥谷部忠義 (4月1日付)

タイムマシーンをあげたい

14

警察官から見た交通死亡事故の回顧録

母として妻として

夫を会社に送り出した若い母親は、ベビーカーに赤ん坊を乗せ散歩に出かけた。いつもと変わらない平和な一日が過ぎて行くはずだった。

交差点に差し掛かった時、左から車が近づいてきたので、母親はその場に立ち止まった。同時に、後ろからも一台の車が走ってきた。双方とも減速したが止まる様子がなく、母親は不穏な空気を感じ、ふいに身構えた。

その瞬間、交差点に進入していた二台の車が轟音とともに衝突し、もつれ合うようにして、交差点で立ち止まっていた若い母親の方へ向かってきた。

母親は、自分の身の危険を顧みず、とつさにベビーカーに乗せていた我が子を細腕で抱きあげ、交差点脇の生垣に投げ込んだ。

その直後、赤ん坊を乗せていたベビーカーはおもちゃのように跳ね飛ばされ、母親は向かってきた

車とブロック塀の間に柔らかいぬいぐるみ人形のように挟まれてしまった。

生垣の中では、赤ん坊がけたたましい泣き声で泣いていた。本能に従ってなんとなくの嫌悪感を泣くことでしか表せない赤ん坊にしては、それは、まるで意志や感情があるかのような泣き方だった。

その後、悲報を聞いて病院に駆けつけた夫が、変わり果てた妻の姿を目にし、泣き崩れた。そして、持っていた鞆から、淡い桜色の風呂敷に包まれた弁当箱を取り出して、「おまわりさん、これは今朝、妻が作ってくれた弁当です。まだ、こんなにあつたかいんですよ。どうして…」と、遺体を見つめた。

私は、まだ二十五歳といううら若さで、母親として、我が子を文字通り死守し、妻として夫に愛情を注いできたこの女性に、畏敬の念を抱き、触れた弁当の温かさに涙が溢れ、その場に立ち尽くしてしまった。

地区交通安全協会連合会総会が開催されました

相模地区交通安全協会連合会(6月24日)湘南地区交通安全協会連合会(6月26日)及び三浦半島地区交通安全協会連合会(7月13日)の総会が開催されました。総会は、平成22年度の事業報告、23年度の事業計画、予算などが審議され、了承されました。県協会からは、高橋専務理事、長島事務局長、西村総務部長がそれぞれ出席し、本年度における県交通安全協会と地区協会の業務に関する連携、交通安全に関する取り組みなどについて協議が行われました。



二輪車事故ワーストワンを返上しよう!

～黒岩県知事、久我県警本部長が参加し事故防止キャンペーン～

多発する二輪車交通事故を防止するため、7月10日(日)、横浜駅東口新都市プラザ広場で「二輪車交通事故防止キャンペーン」が行われました。キャンペーンには、黒岩知事、久我警察本部長、県警交通部幹部のほか交通関係団体から総勢134人が参加しました。当協会からは、高橋専務理事ほかのスタッフが参加して、知事、警察本部長の挨拶の後、会場に訪れた人達約500人に、チラシや交通安全グッズなどを配布しながら二輪車交通事故防止を呼びかけました。



トピックス

募集

平成24年使用 交通安全 年間スローガン(標語)募集



平成23年11月下旬の毎日
新聞紙上及びNHKテレビ、
ラジオ

平成24年1月下旬の第52
表彰式

回交通安全国民運動中央大
会の席上に最優秀者を招く
(予定)。

平成23年度

を付け、応募区分、住所、郵
便番号、氏名(ふりがな)、
年齢、職業、電話番号、応募
の動機(ポスター、チラ
シを見て等)を明記

(財)全日本交通安全協

2 一般部門B

会と毎日新聞社では、平成
24年に使用する交通安全年
間スローガン(標語)を次
の要領で募集しています。

歩行者・自転車利用者に
対するもの。

ふるってご応募ください。

募集期間

平成23年9月30日(金)ま

で(必着)。

募集区分

1 一般部門A

運転者(同乗者を含む)に
対するもの。

① 運転マナーの向上(高
齢者、子ども、身障者等
への思いやり運転)

② 飲酒運転の根絶

③ すべての座席のシート
ベルトとチャイルドシー
トの正しい着用の徹底

④ 夕暮れ時の早め点灯の
促進

2 一般部門B

① 高齢者の交通安全(正
しい横断など)

② 自転車利用者のルール
の遵守

③ 夕暮れ時、夜間の交通
事故防止(反射材用品の
活用など)

3 こども部門
小、中学生自身に交通安
全を呼びかけるもの。

送り先

〒100-8051
東京都千代田区一ツ橋1-1

1-1(郵便の場合住所不要)
毎日新聞社事業本部「交
通安全年間スローガン」係

(電話)03-3212-10
190)

発表

交通安全ファミリー作文 コンクール作品募集

テーマ「我が家の交通安全」



内閣府、(財)全日本交通
安全協会などは、「我が家の
交通安全」をテーマにした作
文を募集しています。題材は
交通安全を推進するもので
あれば自由です。

応募期間

平成23年7月1日(金)か
ら9月10日(土)まで。※当日
消印有効

応募区分

①小学生の部②中学生の部
③一般(高校生以上)の部

応募方法

【小学生と中学生の部】

◇ 1、200字(400
字詰め原稿用紙3枚)程度

◇ 小学生低学年(1・2
年生)にあつては、80
0字程度で可

◇ 内容にふさわしい題名
を付け、応募区分、住所、
郵便番号、氏名(ふりがな)、
学校名・学年・学校・所
在地・郵便番号・電話番
号を明記

【一般・高齢者の部】

◇ 1、200字(400
字詰め原稿用紙3枚)程度

◇ 内容にふさわしい題名

〒105-0003

東京都港区西新橋2-8

17平家ビル5階

(株)ネクストアイ内「交通安
全ファミリー作文係」

電話 03-6206-1

314

E-mail:sakubun@next-

eyeco.jp

お問合せ先

・事務局(株)ネクストア
イ内「交通安全ファミリー
作文係」

・内閣府政策統括官(共生
社会政策担当)付交通安全
啓発担当

電話03-3581-11

82

※詳細は、(公財)神奈川
県交通安全協会のホーム
ページをご覧ください。

82

82

82

82

82

82

82



ハンドルキーパー運動の紹介

その197 大和綾瀬交通安全協会から

～「高座渋谷地区」で街ぐるみ 飲酒運転根絶宣言式の開催～

大和警察署(瀧口 操署長)と大和綾瀬交通安全協会(古郡保正会長)は、小田急江ノ島線「高座渋谷駅」周辺で開発中の「渋谷土地街区」の関係者に、街づくり段階から「飲酒運転根絶」気運を高めてもらうための宣言式を行いました。宣言式は、夏の交通事故防止運動初日の7月11日、渋谷土地地区画整理事務所で、大木大和市長、大和商工会議所渋谷支部長等関係者約20名が参加して行われ、瀧口署長と古郡交通安全協会会長から高座渋谷商店会会長等へ「飲酒運転根絶の店のプレート」、「ハンドルキーパーミニのぼり旗」を贈呈後、商工会議所渋谷支部長が大木市長に「飲酒運転根絶」の宣言を行いました。大木市長からは「飲酒運転は大きな交通事故につながるので街ぐるみで根絶しよう。」との挨拶を頂き、宣言式を終了しました。高座渋谷商店会の飲食店等では、新しい街づくりを契機に「ハンドルキーパーミニのぼり旗」や「ハンドルキーパーポスター」を店内に掲出し、ハンドルキーパー運動の展開を通じて街ぐるみの飲酒運転根絶を推進することとしています。



飲酒運転根絶宣言

交通事故のない、安全で安心な街づくりは、市民すべての切なる願いであり、そのための交通ルールとマナーの実践が求められています。

特に、飲酒運転は交通死亡事故に直結する極めて悪質・危険な行為であり、絶対に許されるものではありません。

飲酒運転を根絶するためには、「飲酒運転を絶対にしない、させない、許さない」という強い意識を持って行動しなければなりません。

私たちは、渋谷地区の新しい街づくりを契機に家庭と地域が一体となった「飲酒運転根絶と交通事故のない安全な街づくり」の実現に向けて努力することをここに宣言します。

平成二十三年七月十一日
大和市長 大木 敏
大和商工会議所渋谷支部長 本谷 敏

その199 相模原北交通安全協会から

相模原北交通安全協会(吉田實会長)では、相模川大島地区キャンプ場バーベキューなどで訪れている行楽客に、横断幕・のぼり旗を掲出し、チラシや啓発物を配布しながら、「ハンドルキーパー運動」の実践を呼びかけました。



その198 座間交通安全協会から

座間交通安全協会(山口欣司会長)では、「ハンドルキーパークリアファイル「A5版」を3千枚作成し、キャンペーンや免許更新で事務所を訪れた方々に配布しながら、「ハンドルキーパー運動」の実践を呼びかけます。





麻生交通安全協会
会長
関口 達雄さん

麻生交通安全協会は、昭和62年4月、麻生警察署開設と同時に発足しました。発足当初は、警察署内の一角を借りて免許更新事務などを行っていましたが、平成4年5月に警察署の敷地の一角に事務所を新築移転し現在に至っております。

麻生区の人口は、現在約17万人、新宿と小田原(江ノ島)を結ぶ小田急線「新百合ヶ丘駅」を中心に都市化の波が広がっています。また、新百合ヶ丘駅からは小田急多摩線が分岐し五月台、栗平などの4駅を中心とした開発がここ数年来急速に進んでいます。このため、旧来の農家と新興住宅街が混在するなど、いわゆる「神奈川県民」と呼ばれる東京志向が強い土地柄でもあり、新百合ヶ丘駅周辺は「芸術の街・音楽の街」として栄え、最近では「昭和音楽大学」や国内初の「日本映画大学」が相次いで開校しています。また、区内の高台からは大山・丹沢連峰、富士山が遠望できるほか、弘法大師が金剛峯寺建

立を考えた場所に植えたと言われる「弘法の松」という名所旧跡等もあります。

今回は、この地で文房具店を経営する傍ら、交通安全協会会長として活躍されている関口達雄さんを紹介いたします。関口さんは、昭和47年4月、多摩交通安全協会柿生支部役員として協会の運営に参画され、以降、麻生東支部長、理事、交通指導員部長、副会長などを歴任され平成19年5月から第4代目会長に就任されました。年間を通じた各

季の交通安全運動等では、小学校へ通う児童を交通事故から守るため、率先して街頭監視活動を行っているほか、区交通安全対策協議会副会長として参画し、関係機関団体と連携してキャンペーン、イベントなどを企画立案しています。特に「あさお区民まつり」では交通警備部長として先頭に立つて区交対協会長を支えています。ここで、会長の交通安全にご紹介いたします。昨年のことですが、「麻生警察署管内交

通死亡事故ゼロ千日達成」が近づき、警察署、関係機関・団体が一丸となって交通安全広報・啓発活動等を推進してまいりました。会長自ら交通安全広報車に乗り込んで、広報活動を行ってききましたが、「千日ゼロ目標達成」目前の950日目にしてバイクの交通死亡事故が発生し、目標達成が脆くも崩れてしまいました。涙を流し悔しがついている会長の姿を見て、交通ボランティア活動に真摯に取り組み熱血漢の一面を垣間見たような気がしました。「安全安心な街 麻生」を目指して今日も交通街頭活動に汗を流す交通ボランティア集団、今後は「秋の全国交通安全運動」、「飲酒運転根絶月間」、「年末の交通事故防止運動」などの行事を控え、多忙な日々が続きますが、会長には健康にご留意され、ご活躍されますことを願っています。

取材協力：麻生交通安全協会

インフォメーション

- 秋の全国交通安全運動
9月21日(水)から30日(金)
までの10日間
- シニアドライバースクール
9月11日(日)

こんにちは
「青葉交通安全協会」です

丘の横浜とも呼ばれている青葉区は、横浜市内では、港北区に次いで第2位の人口(30万4,033人)を擁していますが、更に増加の一途を辿り、免許保有者数も19万人を超え、当協会を訪れる人も、一日あたり150人を数えています。また、区内の男性の平均寿命は81.7歳で、全国第一位に輝くなど、青葉区は知る人ぞ知る「長寿の郷」としてお年寄りに優しい自然・居住環境に恵まれた街でもあります。

道路交通網は、東名高速(青葉IC)、国道246号などの基幹道路が東西に走っているほか、JR横浜線、

田園都市線の鉄道網も整備されており、横浜都心部、東京等へのアクセスには利便性の高い地域でもあります。

私ども事務長以下5名の職員は、この青葉交通安全協会「迅速・丁寧・親切」をモットーに交通安全ボランティア活動に積極的にご協力いただける会員さんの加入促進に努めています。

当協会の交通安全活動は、青葉警察署のご指導の下、工藤会長以下8地区の各支部長、役員、交通指導員の方々がそれぞれの地域の交通実態を的確に把握され、各季の運動等を通じてキャンペーン等の交通安全活動を展開しています。

特に、高齢者の交通事故防止に



関しては、警察署、関係機関・団体と連携して、高齢者宅への家庭訪問や、交通安全教室にも力を入れ、「高齢者に優しい住みよい街づくり」の一端を担っています。

今後も、交通関係機関・団体と手を携え、区内の交通安全の確保に邁進していきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

(川上記)

地区交通安全協会の活動紹介

～夏の交通事故防止運動～



鎌倉
JR鎌倉駅前広場で、のぼり旗を掲出し、乗降客にチラシや啓発物を配布しながら交通事故防止を呼びかけました。



平塚
JR平塚駅前で、のぼり旗を掲出し、乗降客にチラシや啓発物を配布しながら交通事故防止を呼びかけました。



茅ヶ崎
JR茅ヶ崎駅前で、のぼり旗や横断幕を掲出し、乗降客にチラシや啓発物を配布しながら交通事故防止を呼びかけました。



小田原
JR小田原駅前で、のぼり旗を掲出し、乗降客にチラシや啓発物を配布しながら交通事故防止を呼びかけました。

山手
山手警察署前で、のぼり旗を掲出し、道行く人にチラシや啓発物を配布しながら交通事故防止を呼びかけました。



北港
東急東横線「日吉駅」前で、のぼり旗を掲出し、乗降客にチラシや啓発物を配布しながら交通事故防止を呼びかけました。



筑都
市営地下鉄「センター南駅」周辺で、のぼり旗を掲出し、道行く人達にチラシや啓発物を配布しながら交通事故防止を呼びかけました。



賀須横
京急横須賀中央駅前で、のぼり旗を掲出し、乗降客にチラシや啓発物を配布しながら交通事故防止を呼びかけました。



あなたの会費が交通安全活動に役立っています

編集後記

いったん走り出した物事(世の中)の方向変換は大変である。

大震災・原発事故を契機に原子力からクリーンエネルギーへの転換が叫ばれているが、社会全体を動かすエネルギー政策の根幹をなす事柄であり、単純に「原子力は危険だから駄目」と口で言うほど容易ではないようである。

難しいことはともかく、電力不足が大ごとにならないよう、当面、エアコンがフル稼働するこの夏季3カ月間を無事に乗り切らなければなりません。

二俣川の運転免許試験場も電力使用制限規則に基づく大口需要家(契約電力500kw以上)に指定され、7月1日から9月22日までの間15%節電を掲げております。

県安協講習部でも、事務室の照明・コピー・冷蔵庫・パソコンの禁止・制限措置など、極力電気を使わないようにしています。なんとか最後の砦である更新者講習室のエアコン(危なくなければ設定温度を2度上げる)にまで手をつけられないようにしたいと考えております。

今回の電力危機を乗り切るため、サマータイトム導入や大手自動車会社などは土・日就業等、色々アイデアを出してきていますが、これを一過性に終わらせることなく、「省エネ」を継続徹底させれば、日本社会のありようにまで影響が及ぶものと思われまます。「転んでもただでは起きない」の言葉どおり、今回の災害を機に我々の社会構造やライフスタイルが良い方に転換するようになりたいものであります。

(K・K記)